

## 新生病院オーケストラへ

ようこそ



歯科口腔外科医長

北村 豊

私が新生病院に来てから早や五年の歳月が経過した。

この病院に赴任した理由の一つは口腔外科という私の専門性を生かしての私なりの心の通い合う医療の出来る場がこの小布施町にあると確信したからである。

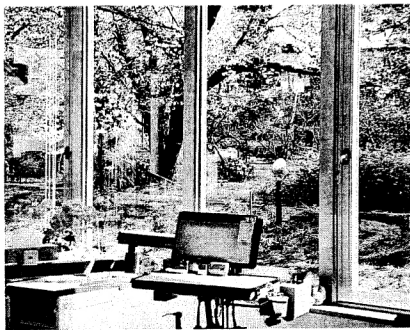
もう一つの理由は、私がライフワークとしている海外医療協力が、新生病院の理念の一つになっていることである。

歯科口腔外科の設立に際しては職員より強い反対の声があったと聞くが、今や患者さんの5く6割は、北信地域の広域にわたる歯科及び医科の医療機関からの紹介によるものであり、この事実も、当病院口腔外科がこの地域で必要とされ、かつ根づいたことの証といえよう。

日本口腔外科学会からも当病院の活動が認められ、昨年十月には、同学会より北信地方では初めての

口腔外科認定医養成の為の指導機関に指定された。

英断を持って歯科口腔外科の設立に尽力して下さった内坂徹前院長、伊藤道雄前副院長を始め理事の方々に本誌を借りて厚くお礼申し上げます。



口腔外科診療室の窓は、豊かな自然の残る庭が広く一望できるよう大きく設計してもらった。患者さんの多くが診療椅子に座るなり窓外の景色に心の安らぎを覚えられらるという。現在は、紅梅に始まり、レンギョウ、梅、そして下草に紫や白の可憐なスマイレの花が咲き乱れている。このような自然を診療環境に取り入れることができたと歯科口腔外科は、日本でも珍しいと思う。

自然環境は、私たちにとってかけがえないものでありながら、日本の大都市では自然のリズムが破られ、富や権力は得られても安らぎを失うという異常な環境であるといえる。長野県でも自然は失われつつあるが、幸いこの病院には豊かな自然が残されており、私たち職員には守り育てていく責任があると考えている。

自然を征服するのではなく、自然に順応していく考え方は、中国を中心にして長い歴史を経て発展した東洋医学の根底に流れる思想である。東洋医学の代表選手に漢方薬があるが、西洋薬（新薬）と違って二種類以上の生薬で構成されているので多種類の成分を含んでいるのが特徴であり、そのことにより西洋薬では得がたい効果をもたらされると考えられている。

自然環境を構成する動植物なども、多種多様な種が存在するからこそ、『自然』なのである。ここで新生病院の庭にも棲んでいる『食糞性コガネムシ』について記してみたい。

このコガネムシはその名のごとく動物の糞を食するというリサイクルの達人（虫？）である。新天地オーストラリアに移住した白人は、

約二〇〇年前に牛や羊を家畜として連れて行ったが、大事な忘れ物をした。その結果牧場は糞による牧草の被害や糞の中で繁殖するブッシュフライ（ハエの一種）が増え、大きな問題となったのである。そこでオーストラリア政府は、外国から約二〇種類の食糞性コガネムシを輸入したところ、問題は解決に向かいつつあるという。普通あまり目にするのではない（珍しいわけではないが）虫も、自然界では立派な仕事を忠実にこなしているといえるだろう。

『病院』は、多くの職種の人が集まって調和を持って仕事をする場であり、『オーケストラ』のようなものではないだろうか。

職員がホラを吹くことなく、知識や技術という楽器を真心を込めて奏でることにより、ハーモニーのあるメロディーが生まれてくると思う。知識や技術は生かしてこそ名器になりうるものであり、音楽はからきし駄目の私も、仕事では名演奏家に少しでも近づけるよう努力したいと思っている。

今後、病院ではどのような音楽が奏でられるのだろうか？楽しみである。